小　学　校

令和５年度

教育研究員研究報告書

特別の教科　道徳

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究の視点 ・・ 2

Ⅲ　研究の仮説 ・・ 2

Ⅳ　研究構想図 ・・ 3

Ⅴ　研究の内容 ・・ 4

1　基礎研究 ・・ 4

2　調査研究 ・・ 6

3　実践研究 ・・ 8

〈指導事例１：第６学年〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
〈指導事例２：第６学年〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
〈指導事例３：第６学年〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Ⅵ　研究のまとめ ・・ 14

研究主題

自己の生き方についての考えを深める児童の育成

～道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

１　研究主題について

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化がどのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。このことを踏まえ、小学校学習指導要領（平成 29 年３月）では、育成を目指す児童の姿について「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し､多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示している。

また、「東京都教育施策大綱」（東京都　令和３年３月）では、【「未来の東京」に生きる子供の姿】として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」や「他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」を示している。

これらのことから、これからの変化の激しい時代を生きる子供たちには、自分のよさや可能性を認識するとともに、生涯にわたって遭遇するであろう様々な課題と向き合い、能動的に解決しながら生きていこうとする姿勢が求められていると、本研究では考えた。

上の課題に対して、道徳科では、特に「自己の生き方についての考えを深める」ことが重要だと捉えた。

小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編では、「自己の生き方について考えを深める」ことについて、以下のように示されている。

> (4) 自己の生き方についての考えを深める（一部抜粋・下線は部会による）
>
> 児童は、道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めているが、特にそのことを強く意識させることが重要である。
>
> <u>児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすること</u>が大切である。

本研究では下線部に着目し、その充実を図るための指導方法を研究することとした。以上のことから、研究主題を「自己の生き方について考えを深める児童の育成」と設定した。

２　研究副主題について

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申)」（中央教育審議会　令和３年１月 26 日）では、各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別

最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことを示している。併せて、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることも示している。また、道徳編では、児童一人一人がねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳性を主体的に養っていく時間であることを理解し、授業を工夫することが示されている。

これらのことから、道徳科の特質の一つである、児童が自己の生き方についての考えを深める学習の充実を図るためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実も併せて推進することが重要であると考えた。そこで、副主題を「道徳科における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を通して」と設定し、研究を進めた。

Ⅱ　研究の視点

１　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

児童の主体的な学びを実現するために、道徳科においては児童一人一人に問題意識をもたせることが大切である。そこで、児童が問題意識をもち、主体的に考える発問を構成することで、問題を解決する過程を通して、児童は自己の生き方についての考えを深めることができるだろうと考えた。

研究では、以下のような問題意識をもたせる発問の構成を考えた。(詳細Ｖ１(2)表１参照)

○　導入と展開の発問のつながりをもたせることで、より自己を見つめることができる。

○　展開の後半において自己の振り返りを行う前に、ねらいとする道徳的価値の大切さやよさへの気付きを促す発問をすることで、より自己の生き方についての考えることができる。

２　デジタル機器を活用した学習活動

道徳科において、デジタル機器の活用を推進するうえで、手段であるデジタル機器の活用が授業の目的にならないように配慮する必要がある。そのためには、教師が明確な指導の意図をもち、デジタル機器を活用することが必要である。

本研究では、教師の指導の意図を明確にしたうえで、以下のようなデジタル機器の活用を取り入れて、授業実践を行った。(詳細Ｖ１(3)表２参照)

○　児童が、デジタル機器の画面共有機能を用いて、互いの考えを共有したうえで、話を聞いてみたい友達を自ら見付け、主体的な対話を促す。

○　児童が、デジタル機器上に共有された自他の考えを比較・検討する時間を設け、自分自身の考えをさらに深めたり、新たな考えに気付いたりできるようにし、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

Ⅲ　研究の仮説

「児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成」及び「デジタル機器を活用した学習活動」の工夫により、道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、児童は自己の生き方について考えを深めることができるだろう。

Ⅳ　研究構想図

【教育研究員　共通研究テーマ】

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

【研究の背景】

○　豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展の実現が求められている。

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。「小学校学習指導要領（平成 29 年３月）」

○　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められている。

各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会　令和３年１月 26 日）

○　デジタル機器の一層の活用が求められている。

学習の中で、デジタル機器を使うことが役立つと思う児童の割合が 90％を超え、高い割合を示している。「令和４年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）

【研究主題】

自己の生き方についての考えを深める児童の育成

～道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

【目指す児童の姿】

自己を振り返り、自他の思いや考えを大切にし、よりよい生き方を考える児童

【研究の視点】

１　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

２　デジタル機器を活用した学習活動

【研究の仮説】

「児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成」及び「デジタル機器を活用した学習活動」の工夫により、道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、児童は自己の生き方について考えを深めることができるだろう。

【研究の内容】

（基礎研究）

・道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

・児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成について

・デジタル機器を活用した学習活動について

（調査研究）

・「令和３年度道徳教育実施状況調査」及び「令和５年度全国学力・学習状況調査」の結果を基に研究主題に迫る指導の工夫の視点を明らかにする。

（実践研究）

・研究の視点に基づく指導方法の工夫や改善を取り入れた検証授業を行う。

【研究のまとめ】

研究の視点に照らして児童の学習状況を見取り、指導の工夫が効果的であるか分析する。

Ⅴ　研究の内容

１　基礎研究

(1)　道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

本研究では、道徳科において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくために、それぞれの指導について下の図１のようにまとめた。

【道徳科の特質の理解】（一部抜粋・下線は部会による）

道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。このことを、教師が共通に理解して授業を工夫することが大切である。

「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」より

【個別最適な学び】

○児童がねらいとする道徳的価値について自分の経験を想起させ、自分事として考えられるよう、問題意識をもたせる。

○自己の振り返りでは、児童が自分の経験を想起しながら、ねらいとする道徳的価値に基づいて、自分のことについて振り返らせる。

○発問に対して児童一人一人が主体的に考えていけるように、最適な学習形態を作っていく。

○教師が問い返すことで、児童一人一人の考えを引き出したり、児童が思いを表現できたりするようにする。

【協働的な学び】

○対話の時間を設けることで、自他の思いや考えを比較したり、共感したりしながら考えを深めさせる。

○ねらいとする道徳的価値についての児童や学級の実態を教師が把握し、必要に応じて児童に提示することで、多様な考えに触れさせ問題意識を高める。

○デジタル機器の利活用によって、一度に多くの思いや考えを共有する。

○教師が児童の反応や意見を予想し、意図的なグループ分けを行い、話し合わせたり、話し合った考えに対して問い返したりする。

図１　道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導について

このことを踏まえ、図１に示す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を学習指導過程に取り入れ、検証授業を行った。

(2)　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

本研究では、児童がねらいとする道徳的価値に問題意識をもち、主体的に自分の生き方について考えられるように、表１を活用し、検証授業を通して、検討を行った。

表１　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問構成

展開	学習活動
導入	【指導の個別化】 ・　事前に調査したアンケートの結果を確認し、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高め、自分との関わりで考えようとする構えをもたせる。 ・　ねらいとする道徳的価値に関する自身の経験を想起させる。 ・　児童の興味・関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる動機付けを行う。 学習課題を設定する。
展開	【指導の個別化】 ・　ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問を設け、展開の前半から展開の後半への思考の筋道を補う手だてとする。 【学習の個性化】 ・　ねらいとする道徳的価値に対する今までの自己の考えとのずれに気付いたり、自分の考えを再確認したり、今までの自分の感じ方・考え方に対する自覚を深めたりする。

(3)　デジタル機器を活用した学習活動

本研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るために、表２を活用し、検証授業を通して、検討を行った。

表２　デジタル機器を活用した学習活動

展開	学習活動
導入	・　デジタル機器を活用した児童のアンケート結果を集約し、共有することにより、自己の経験だけにとどまらず、多様な経験に触れさせる。
展開	・　デジタル機器に自分の考えを入力した後、学級全体で共有する。また、交流の仕方は、一人でじっくりと友達の考えを確かめたり、詳しく聞きたい友達に質問や相談をしたりすることを通して、自他の考えの共通点や相違点を考えさせる。 ・　デジタル機器上に入力した考えを教師が確認し、意図的に指名し、学級全体で共有することで、児童はねらいとする道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができる。

２　調査研究

(1)　目的

「令和３年度道徳教育実施状況調査」（文部科学省）及び「令和５年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の分析を通して、研究主題に迫る指導の工夫の視点を明らかにする。

(2)　内容

「令和３年度道徳教育実施状況調査」（文部科学省）の集計結果及び「令和５年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の集計結果から、実践研究に生かして改善を図るための方法を考察する。

(3)　対象

令和３年度道徳教育実施状況調査　　（全国公立小学校）1,187 校
　　（全国公立義務教育学校　前期課程）10 校
令和５年度全国学力・学習状況調査　　（全国公立・国立・私立学校）18,821 校

(4)　調査結果及び考察

表３　道徳科授業を実施する上での課題

選択肢（複数回答可）	小学校数	回答割合
１．　話合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導	**725**	**63.8%**
２．　物事を多面的・多角的に考えるための指導	635	55.8%
３．　道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導	**647**	**56.9%**
４．　問題解決的な学習を取り入れた指導	265	23.3%
５．　道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた指導	306	26.9%
６．　特別活動等の多様な実践活動を生かした指導	157	13.8%
７．　情報モラルや現代的な課題に関する指導	465	40.9%
８．　各教科等と関連をもたせた指導	230	20.2%
９．　多様な補助教材の選定や活用	217	19.1%
10.　道徳科の特質を踏まえたＩＣＴの効果的な活用	536	47.1%

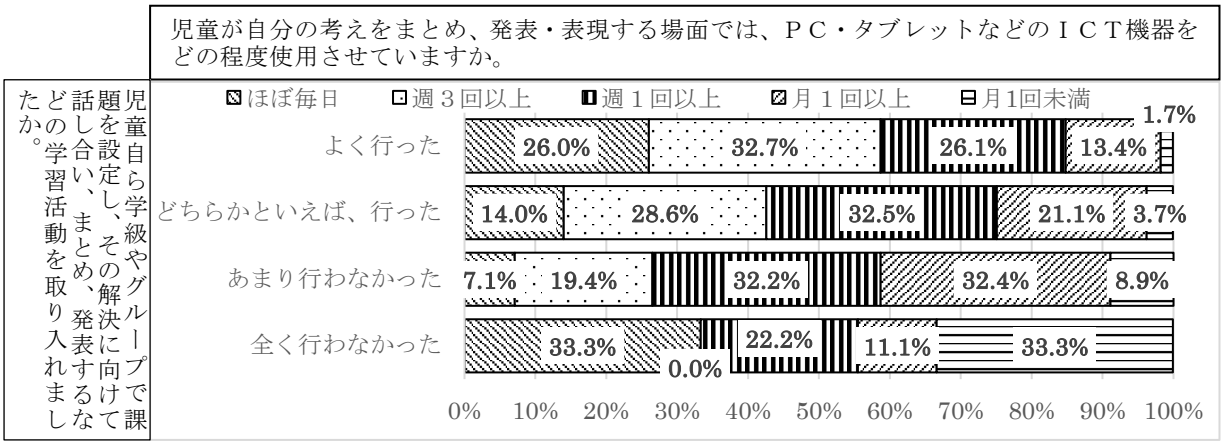
「令和３年度道徳教育実施状況調査」（文部科学省）より抜粋

○　考察

表３からは、「話合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導」、「物事を多面的・多角的に考えるための指導」、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導」など、道徳科の特質を生かした学習指導に課題を感じている学校が多いことが分かる。

このことから、話合いや議論などを通じて、児童が物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための指導の工夫や、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための具体的な手だてが必要であることが考えられる。

これらの課題解決については、多くの学校が求めている内容であり、本研究における「児童が自己の生き方についての考えを深める」ことにつながると考えた。そこで、本研究では上の課題を解決するため、２点の研究の視点から、主題に迫ることとした。



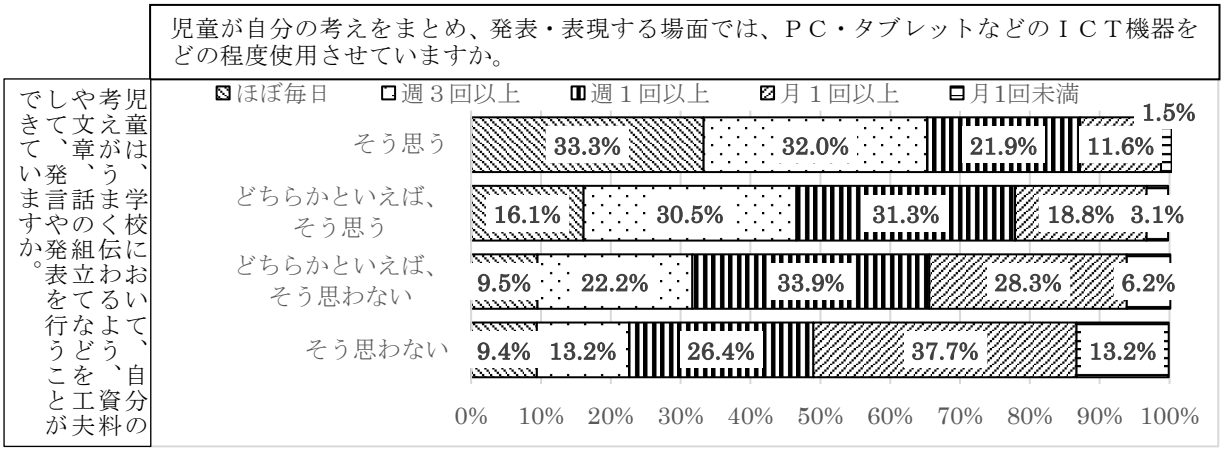


図２　「ＩＣＴ機器の活用」と「主体的・対話的で深い学び」との関係（小学校）

「令和５年度全国学力・学習状況調査」より

○　考察

図２の２つのグラフからは、児童が自ら課題を設定し、課題解決に向けての話合いや自分の考えをまとめ、発言や発表するなどの学習活動に積極的に取り組んでいる学校ほど、デジタル機器を積極的に活用している傾向が分かる。この傾向を受け、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けたデジタル機器の活用は効果的であると捉えた。

このことから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためのデジタル機器の活用は、本研究の副主題につながるとともに、多くの学校が求めている内容であると考えた。

(5)　考察のまとめ及び研究に生かす視点

表３より、話合いや議論を通じて考えを深めることや道徳的価値を自分との関わりで深めるための指導を工夫することが求められていることが分かった。そのためには、児童がねらいとする道徳的価値を自分事として捉え、問題意識をもって考えを深めることが必要である。本研究では、１時間の道徳科の授業の中で問題意識をもちながら学習に取り組むことができるようにし、自己の生き方についての考えを深めるための手だてとした。

また、図２よりデジタル機器の活用は、副主題に迫る上で有効な手だてであるとともに、多くの学校が求めている内容でもある。道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための活用を、児童が自己の生き方についての考えを深めることができる視点で適切に取り入れ、有効な手だてとしたい。

３　実践研究

＜指導事例１：第６学年＞

(1)　主題名　「自分の心に誠実に」　Ａ　正直、誠実

(2)　ねらい　自分に対してうそや偽りなく、誠実に生きようとする心情を育てる。

(3)　教材名　「手品師」

(4)　研究の視点

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

事前アンケートを活用して「『誠実』とは、どのようなことだと思いますか。」と問い、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもって主体的に学習に取り組めるようにする。そして、展開の後半の自己を振り返る時間を充実させるために、展開の前半と展開の後半の間に、「手品師は『誠実でいる』とは、どのようなことだと考えたのでしょうか。」という、発問を設け、児童が自分の経験を想起しやすくする。展開の後半では、学習課題を振り返りながら、自分が誠実でいることができた経験やその時の気持ちを想起させる。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

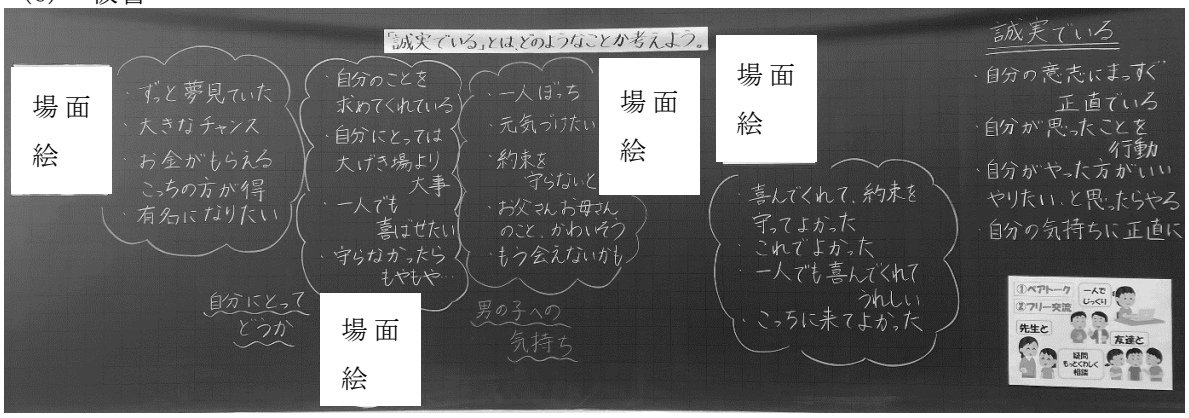
自己を振り返る場面において、多様な感じ方・考え方やその背景となる友達の経験などに触れることで、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにする。そのために、デジタル機器に自分の考えを入力した後、学級全体で共有する。また、交流の仕方は一人でじっくりと友達の考えを確かめたり、詳しく聞きたい友達に質問や相談をしたりするなど、自由に選択させ、児童一人一人が自分に合った方法で考えを広げたり深めたりしていけるようにする。

(5)　学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	◇指導の工夫　☆評価の視点
導入	１　主題について自分の考えをもつ。 ○「誠実」とは、どのようなことだと思いますか。 「誠実でいる」とは、どのようなことか考えよう。	◇事前アンケートにより、児童一人一人に主題についての考えをもたせる。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】 ◇大型テレビに事前アンケート結果を映し、共有することで多様な考えに触れさせる。【協働的な学び　視点(2)デジタル機器の活用】
展開	２　教材「手品師」を読んで話し合う。 ○友人からの誘いを受け、手品師はどのようなことを考えたでしょうか。 ◎男の子の前で手品を演じているときの手品師は、どのような気持ちだったでしょうか。 ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問 ○手品師は「誠実でいる」とは、どのようなことだと考えたのでしょうか。	◇４人の小グループで、２対２の役割演技を行う。どちらの立場も考えられるよう、途中で役割交代をする。 ◇どの児童も自分なりの考えがもてるよう、小グループで話合って意見を共有する時間を設けてから、全体で意見を出し合う。 ◇児童が自分の経験を想起しやすくし、自己を見つめられるようにする。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】

	3　自己の生き方についての考えを深める。 ○自分がよいと思って決断し行動して、よかったと思うことはありますか。これまでの生活や今日の学習を振り返りながら書きましょう。	◇個々に考えを入力した後、デジタル機器を活用し意見を交流する時間を設ける。交流の仕方を自由に選択させ、考えを広げたり深めたりできるようにする。 【学習の個性化・協働的な学び視点(2)デジタル機器の活用】 ☆自分に対してうそや偽りなく誠実に行動できた時の経験を掘り起こして自覚し、誠実に生きることのよさを考えている。 （デジタル機器の画面共有機能、発言）
終末	4　教師の説話を聞く。	◇自分の心の中の良心に従って決断し、行動することのよさを感じたときの体験談を話す。

(6)　板書



(7)　成果と課題（○成果　●課題）

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

○　事前アンケートを活用して「『誠実』とは、どのようなことだと思いますか。」と問いかけたり、児童から出た多様な考えを提示したりしたことで、本時のねらいに対する問題意識をもたせることができた。

○　展開の後半で、学習課題を振り返りながら、自分が誠実でいることができた経験とその時の気持ちを想起させ、友達と交流し様々な意見を聞くことで、「誠実でいる」ことのよさについて考えを広げたり深めたりすることができた。

●　中心的な発問において、児童に考えさせたいこと、気付かせたいことを引き出す発問を準備しておくことが必要である。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

○　画面共有機能を活用することで、児童の対話的な学びにつながり、多様な感じ方・考え方やその背景となる友達の経験などに触れることができた。「誠実でいる」ことの意義や、そのよさについて、考えを広げたり深めたりすることができた。

○　画面共有機能を活用し、集約した児童の考えを生かし、意図的な指名に活用することができた。

●　デジタル機器の活用場面は、授業ごとに検討する必要がある。本時では自己を振り返る場面で活用したが、多様な考えに触れさせ、考えを広げていくことが必要な場面で活用することで、よりデジタル機器のよさが発揮されると考える。

＜指導事例２：第６学年＞

(1)　主題名　「相手のために」　　Ｂ　親切、思いやり

(2)　ねらい　他者から受けた思いやりに気付き、自分も相手の立場に立ち、相手のことを親身になって考えようとする実践意欲と態度を育てる。

(3)　教材名　「最後のおくり物」

(4)　研究の視点

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

導入では、「誰からどのような親切をされたことがありますか。」と問い、親切にする人の思いに問題意識をもたせる。また、自己の振り返りでは、自分自身が親切をしたときにどのような思いがあったから親切な行動ができたのか考えさせるようにする。そこで、ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問では、「二人の行動は、どのような思いから生まれたのでしょう。」と問い、児童が自我関与してきた登場人物がどのような思いで親切な行動をしてきたのか考えることを通して、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めさせる。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

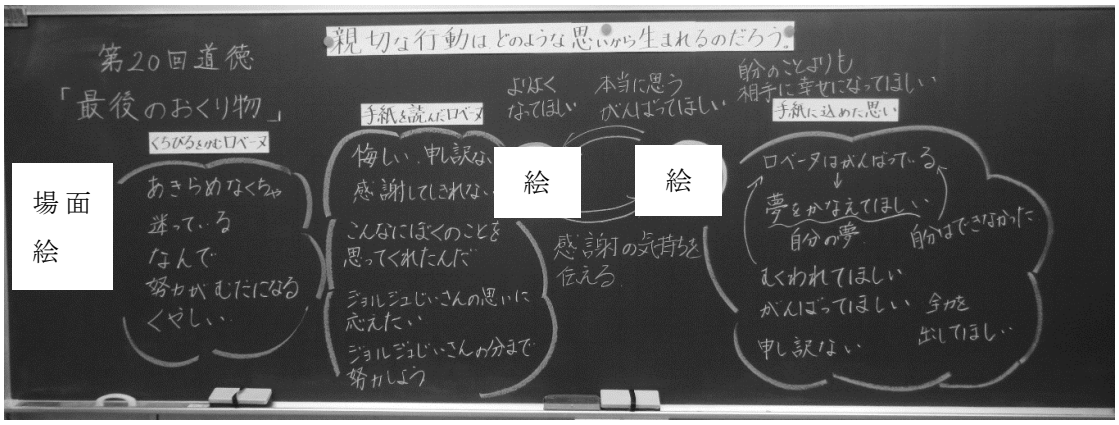
導入では、デジタル機器を活用した児童のアンケート結果を集約し、共有することにより、自己の経験だけにとどまらず、多様な経験に触れさせる。展開では、デジタル機器に自分の考えを入力した後、学級全体で共有する。また、交流の仕方は一人でじっくりと友達の考えを確かめたり、詳しく聞きたい友達に質問や相談をしたりするなど、自由に選択させ、児童一人一人が自分に合った方法で考えを広げたり深めたりしていけるようにする。

(5)　学習指導過程

	学習活動（○主な発問　◎中心的な発問）	◇指導の工夫、☆評価の視点
導入	１　主題について自分の考えをもつ。 ○誰からどのような親切をされたことがありますか。 親切な行動はどのような思いから生まれるのだろうか。	◇事前アンケートにより、児童一人一人に自分の経験を想起させる。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】 ◇大型テレビに事前アンケート結果を映し、共有することで多様な考えに触れさせる。 【協働的な学び　視点(2) デジタル機器の活用】
展開	２　教材「最後のおくりもの」を読んで話し合う。 ○お金が届かなくなり、思わずくちびるをかんだロベーヌはどのようなことを思ったでしょう。 ○ジョルジュじいさんの最後の手紙にはどのような思いが込められていたのでしょう。 ◎手紙を読み終えて、ロベーヌはどのようなことを考えたでしょう。	◇児童一人一人が教材の世界に入り込み、登場人物に自我関与できるようにＢＧＭを流しながら、大型テレビに映して教材提示を行う。 【指導の個別化　視点(2) デジタル機器の活用】 ◇ジョルジュじいさんの思いやりに触れたロベーヌの思いを多面的・多角的に捉えさせるために、デジタル機器を活用する。まず、自分の考えをシートに入力する。次に、クラス全体でそれぞれの考えを共有する。 【指導の個別化・協働的な学び　視点(2) デジタル機器の活用】

	ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問 ○二人の行動は、どのような思いから生まれたのでしょう。	◇学習課題として提示した内容に関わる発問し、ねらいとする道徳的価値について自己を見つめやすくする。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】
	3　自己の生き方についての考えを深める。 ○自分がした親切な行動を思い出しましょう。その親切はどのような思いがあったからできたのでしょうか。	◇導入で示した事前アンケート結果を再提示し、親切した対象について範囲を広げて考えられるようにする。 ☆相手の立場に立ち、親身になって考えようとすることのよさに気付いている。 （ワークシート、発言）
終末	4　教師の説話を聞く。	◇親切にされた人への感謝の気持ちから親切にした経験を話す。

(6)　板書



(7)　成果と課題（○成果　●課題）

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

○　導入で事前アンケート結果を提示し、ねらいとする道徳的価値についての経験を振り返させ、多様な考えに触れさせたことで、ねらいに対する問題意識をもたせることができた。

○　「ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問」において、学習課題に関わる発問を設けたり、導入で提示したアンケート結果を再提示したりしたことで、児童はねらいとする道徳的価値について自己を見つめやすくなった。

●　学習課題に関わる発問は、児童の実態や教材の内容によって、ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問だけでなく、補助発問として児童に問いかけることも必要である。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

○　デジタル機器を活用して、事前アンケートをとり、学級全体のアンケート結果を分析・集約したものを提示したことで、多様な考えに触れさせることができた。

○　画面共有機能を活用して、それぞれの意見を各自の画面上で表したことで、どの児童にとっても意見を表出しやすくなり、その後の児童同士の主体的な対話を促すことができた。

●　話合いの場面においてデジタル機器を活用する場合、児童の実態やデジタル機器を活用する目的を明らかにした上で、取り入れていく必要がある。

＜指導事例３：第６学年＞

(1)　主題名　　同じ人間として　　Ｃ 国際理解、国際親善

(2)　ねらい　日本人としての自覚や誇りをもち、進んで他国の人々とつながったり、より親しくしたりしようとする実践意欲と態度を育てる。

(3)　教材名　「エルトゥールル号のきせき」

(4)　研究の視点

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

導入では、児童の興味・関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめるための動機付けを行う。振り返りでは、思考する中で、今までの自己の考えとのずれに気付いたり、自分の考えを再確認したり、今までの感じ方・考え方に対する自覚を深めたりする。また、教材の登場人物に自我関与して考えたことを基に、自己を見つめることができるように、ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問を設け、展開の前半から展開の後半までの思考の筋道を補う手だてとする。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

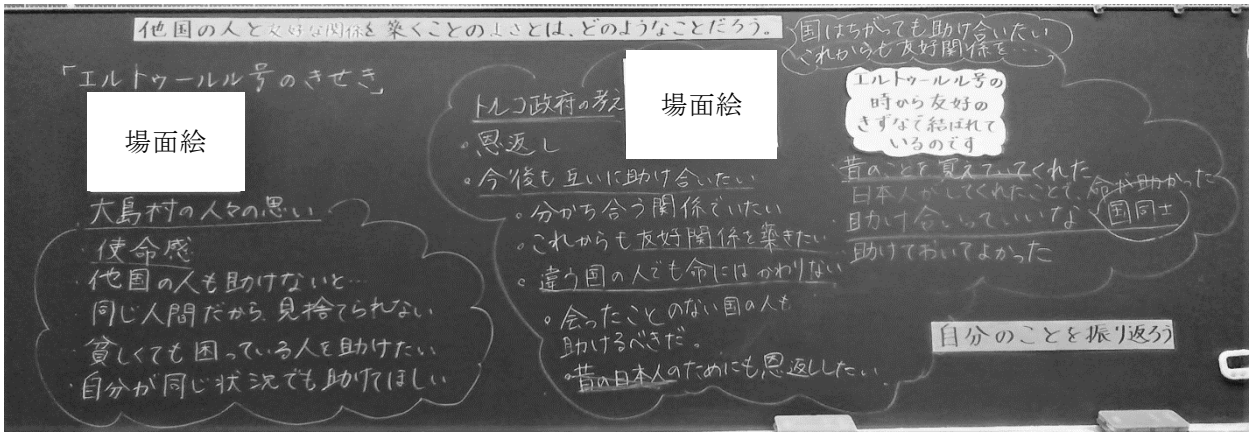
導入では、デジタル機器を活用した児童のアンケート結果を集約し、共有することにより、自己の経験だけにとどまらず、多様な経験に触れさせる。展開の前半では、デジタル機器を活用し、自分の考えを入力した後、学級全体で共有する。また交流の仕方は、一人でじっくりと友達の考えを確かめたり、詳しく聞きたい友達に質問や相談をしたりすることを通して、自他の考えの共通点や相違点を考えたりする。その際に、話す人数や場の選択も児童が自由にできるようにする。自分に最適な学習方法を選択することで、ねらいとする道徳的価値の理解を深められるようにする。また展開の後半では、教師が画面共有機能を活用し、意図的な指名に生かすことで、ねらいとする道徳的価値に関わる様々な考えを学級全体で共有できるようにする。

(5)　学習指導過程

	学習活動（○主な発問◎中心的な発問）	◇指導の工夫、☆評価の視点
導入	１　主題について自分の考えをもつ。 ○日本の人々が他国の人々と、つながったり、親しくしたりしている場面を思い出しましょう。どのような関わりがあると思いますか。 ○日本とトルコとの関わりについて知っていますか。	◇アンケートの結果を確認し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】 【協働的な学び視点(2)デジタル機器の活用】 ◇問題意識を高めるために、写真を紹介する。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】
	他国の人と友好な関係を築くことのよさとは、どのようなことだろう。	
展開	２　教材「エルトゥールル号のきせき」を読んで話し合う。 ○遭難した乗組員を助ける大島村の人々は、どのような思いだったでしょう。	◇貧しい情況下での暮らしで、他国の人々を助けることの難しさについて問い返し、人間理解を深めさせる。

	◎トルコ政府はどのような考えから、日本人救出のために戦地へ向かったのだろう。 ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問 ○日本の人々はどのような思いから、友好な関係を続けていると思いますか。 ３　自己の生き方についての考えを深める。 ○日本の人々が他国の人々とつながったり、親しくしたりしていることを見たり、聞いたりしたことを思い出しましょう。あなたは、どのようなことをすることが大切だと思いますか。	◇デジタル機器に考えを入力させ、意見を共有し、考えを交流したい相手と自由に交流させる。【指導の個別化・協働的な学び　視点(2) デジタル機器の活用】 ◇児童が経験を振り返り、自己を見つめ、考えを深められるようにする。 【指導の個別化　視点(1)発問の構成】 ◇自分との関わりで考えさせるために、経験と心情を想起させる。 【学習の個性化　視点(1)発問の構成】 ◇画面共有機能を活用し、意図的な指名に生かすことで、ねらいとする道徳的価値に関わる様々な考えを学級全体で共有できるようにする。【学習の個性化・協働的な学び　視点(2)デジタル機器の活用】 ☆日本人としての自覚をもって国際親善に努めることのよさについて考えている。 （デジタル機器の画面共有機能、発言）
終末	４　教師の説話を聞く。	

(6)　板書



(7)　成果と課題(○成果　●課題)

ア　児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成

○　導入では、児童が興味・関心を高め、自己を見つめる動機付けができた。また学習課題を児童が考えようとする姿から、問題意識をもつことへの高まりを見取ることができた。

○　展開の後半では自己を見つめ､思いや願いを考える姿から自分事として考えられていた。

●　中心的な発問とねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問の児童の考えは同様のものが多かった。児童の実態等を考慮して発問を吟味していく必要がある。

イ　デジタル機器を活用した学習活動

○　デジタル機器を活用して学級全体の意見を共有したり、意図的な指名を行ったりしたことで、多様な考えに触れさせることができた。

●　児童同士の意見交流の際は、話合いの目的を明確にすると、より活発な交流ができる。

Ⅵ　研究のまとめ

本研究では、研究主題「自己の生き方について考えを深める児童の育成～道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～」を目指し、二つの研究の視点を設定して検証を進めた。成果と課題は、検証授業後に行った授業の分析を基に考察することとした。

1　成果

(1)　研究の視点１「児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成」

○　事前アンケート結果を提示したことで、児童にねらいとする道徳的価値について自分の経験を想起することにつながり、自己を見つめる動機付けができた。また、教材に関わる内容について紹介したことで、児童は、教材への興味・関心を高め、問題意識を高めることができた。

○　ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問を設け、登場人物に自我関与させながら、ねらいとする道徳的価値の理解を促したことで、児童は、ねらいとする道徳的価値について理解を基に、自己の経験を想起しやすくなった。

○　導入で提示したアンケート結果を展開の後半で再度提示し、導入から展開の後半までつながりをもたせたことで、自己の経験を基に、自己を見つめやすくなった。

(2)　研究の視点２「デジタル機器を活用した学習活動」

○　デジタル機器を活用した児童のアンケート結果を分析・集約したものを導入で提示したことで、児童に、短時間で多様な考えに触れさせることができた。

○　中心的な発問において、デジタル機器を活用して短い言葉で登場人物の心情を入力させたことで､自分の考えを発表することが苦手な児童も自分の考えを発表することができた。そして、画面共有機能を活用して、学級全員の意見を共有したことで､「～と書いてあるけど、もう少し詳しく教えて｡」「～ってどういうこと？」などと主体的な対話を促すことができた。

○　自己の振り返りにおいて、デジタル機器を活用することで、児童の対話的な学びにつながり、多様な感じ方・考え方や友達の経験などに触れることができた。ねらいとする道徳的価値について、考えを広げたり深めたりすることができた。

○　画面共有機能を活用して、学級全員の意見を共有したことで、一人でじっくりと友達の考えを読む、詳しく聞きたい友達のところに行って対話をする、迷ったときに友達や教師に相談する、交流したことを自分の考えに付け加えるなどと児童が自由に学習方法を選択することができるようになった。

○　画面共有機能を活用して学級全体の意見を共有することで、全体での話合いをするときの教師が意図的な指名に生かすことができ､学級全体で様々な考えを共有しやすくなった。

2　課題

(1)　研究の視点１「児童が問題意識をもち、主体的に考える発問の構成」

●　導入において、児童のアンケート結果を提示するだけでなく、児童の経験について「そのとき、どのような気持ちだったか。」と問い返し、児童にそのときの思いや考えを想起させることで、児童により問題意識をもたせることが重要である。

● 導入における学習課題の提示において、児童が問題意識をもち、主体的に学習に取り組むようにするには、児童が考える必要性を得られるよう、明確な指導の意図をもって学習課題を設定していく必要がある。

● ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問は、中心的な発問と自己の振り返りの間に限らず、必要に応じて基本発問の補助発問として問い、一層ねらいとする道徳的価値について深めていく必要がある。

● 中心的な発問で、児童がねらいとする道徳的価値について十分に深めさせることができた時には、ねらいとする道徳的価値の理解に関わる発問を補助的に発問し、円滑に展開の後半へつなげる工夫が考えられる。

(2) 研究の視点２「デジタル機器を活用した学習活動」

● デジタル機器を活用した交流では、発問の内容によって活動を柔軟に設定する必要がある。例えば、登場人物の葛藤を考える時には、交流後の意見も追記することで、交流前の意見と比較し、その変容をもとに議論することができるので、追記する時間を確保することも有効である。

● 画面共有機能を活用し、互いの考えを共有する際は、児童のプライバシーに配慮する必要がある。全体で共有する必要性があるか、入力した内容によって、児童が傷つくことがないか検討した上で活用することが大切である。

● デジタル機器を話合いのツールとして活用する場合には､児童の実態やねらいに応じて、入力回数、入力や意見交流の時間等を十分に検討しておく必要がある。時間を十分に確保する必要があるため、発問や活用場面を精選するとともに、児童が日頃からデジタル機器を活用する機会を設けることが大切である。

令和５年度　教育研究員名簿

小学校・特別の教科　道徳

学　校　名	職　名	氏　名
江東区立第一亀戸小学校	主任教諭	相原　知依
大田区立小池小学校	主任教諭	◎ 伊藤　育美
豊島区立池袋本町小学校	主任教諭	三崎　智
練馬区立練馬第二小学校	主任教諭	髙木　康隆
武蔵野市立桜野小学校	主任教諭	清水　俊輔

◎　世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事　塚原　雄太

令和５年度

教育研究員研究報告書
小学校・特別の教科　道徳

令和６年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９